mにわたって二の丸東側石垣が崩壊した。このため、昭和 40・41 年の 2 年度にわたって積み直しが行われた（第 21 図）。津山城跡で最初の本格的な保存整備事業である。

第 22 図　粟積櫓石垣修復工事（南から）

粟積櫓石垣修復工事

当時、津山城跡の石垣の中で、最も崩落の危険性の高い石垣であるとされていた。特に、東面は大きく孕み出しており、何時崩れてもおかしくないという状況であった。このため、昭和 49 年度に解体修復工事が行われた（第 22 図）。津山城跡で最初の解体を伴う工事である。

第 23 図　冠木門石垣修復工事（北から）

冠木門石垣修復工事

粟積櫓石垣に次いで危険性が高いとされていた石垣である。地盤沈下が原因と見られる石と石の遊離が顕著であると共に、北面がかなり孕み出していた。昭和 55 年度に解体修復工事か行われた（第 23 図）。

第 24 図　東南隅石垣修復工事（北から）

三の丸西側土居復旧工事

平成元年 9 月 14 日の集中豪雨により、三の丸西側土居の法面か幅 12 m、高さ 20 mにわたって崩れた。平成元年度中に復旧工事を実施。

東南隅石垣修復工事

東西石垣は孕み出しがきつく、また、東南部、西南部の出隅の勾配も逆勾配になるなど非常に危険な状況であった。特に、この石垣の東側は通学路にもなっており、児童生徒の安全対策上からも解体修復工事の必要に迫られていた。工事は平成元年と 2 年の 2 年度にわたって実施した（第 24 図）。

以上は文化財サイドの事業であるが、この他に都市公園サイドの事業として、次のような整備が行われている。

昭和62年度	二の丸噴水施設撤去工事
平成元年度	二の丸石垣ライトアップ工事・無電中化工事（1年目）
平成２年度	無電中化工事（2年目）
平成３年度	本丸民家、茶店撤去工事・本丸石垣ライトアップ工事・トイレ水洗化工事（1年目）
平成４年度	トイレ水洗化工事（2年目）

3　保存整備事業概要

今回の保存整備事業は、平成10年３月に策定された『史跡津山城跡保存整備計画』に基づく。

整備委員会の立上げなど具体的事業は、計画策定に先立つ平成７年度からスタートし、平成10年度までの４ヵ年は単市事業として、平成11年度からは国・県補助事業として実施した。

【単市事業】

単市事業は、全て津山市教育委員会文化課が主体となって実施した。主な事業概要、経費は次のとおりである。

年　度	事　業　概　要	経費（円）
平成8年度	『史跡津山城跡保存整備計画』策定（1年目）	2,992,500
平成9年度	『史跡津山城跡保存整備計画』策定（2年目）	4,998,000
	第1次発掘調査	2,346,390
	整備委員会他	315,280
平成10年度	備中櫓跡鶴山城址碑移設工事	1,157,000
	津山城跡排水基本調査・備中櫓部地質基本調査委託	6,499,500
	津山城跡石垣立面、勾配測量委託	2,940,000
	第2次発掘調査	2,421,624
	文献調査	984,750
平成11年度	備中櫓復元整備基本計画書・石垣調査報告書作成委託	13,786,500
	『津山城資料編』刊行	2,932,650
	文献調査	1,489,500
	「津山城だより」No.1～3刊行他	1,101,292
平成12年度	備中櫓復元整備工事基本設計委託	9,009,000
	管理道（市道部分）設計委託	493,500
	管理道（市道部分）設置工事	8,663,550
	『津山城資料編Ⅱ』刊行	1,039,500
	管理道設置に伴う配電設備等移転	1,065,096
	文献調査他	993,865
平成13年度	栗石採集他	1,498,772
平成14年度	文献調査	528,000
平成15年度	樹木伐採委託他	2,326,121
	文献調査	452,200
	文献調査他	366,910
平成16年度	台風禍による石垣修理	302,960
	備中櫓復元落成式他	1,178,709
平成17年度	文献調査他	319,729
	計	72,202,898

【国・県補助事業】

国・県補助事業は、平成 11 年度からスタートした。負担割合は、国庫 3/6、県費 1/6、市費 2/6 である。国庫補助事業は、平成 11・12 年度が「記念物保存修理事業」、平成 13・14 年度が「地方拠点史跡等総合整備事業」、平成 15 ～ 17 年度が「史跡等総合整備活用推進事業」の交付決定を受け実施した。

各年度の主な事業概要及び事業費は、次のとおりである。

年　度	事　業　概　要
平成 11 年度	第 3 次発掘調査 五番門南石垣測量図化業務 管理道設計業務
平成 12 年度	第 4 次発掘調査 五番門南石垣修復工事設計業務 五番門南石垣修復工事（2 ヵ年事業の 1 年目） 五番門南石垣修復工事設計監理業務（2 ヵ年事業の 1 年目） 管理道設置工事
平成 13 年度	第 5 次発掘調査 五番門南石垣修復工事（2 ヵ年事業の 2 年目） 五番門南石垣修復工事設計監理業務（2 ヵ年事業の 2 年目） 備中櫓復元整備工事実施設計業務 備中櫓復元整備工事（4 ヵ年事業の 1 年目） 備中櫓復元整備工事設計監理業務（4 ヵ年事業の 1 年目）
平成 14 年度	第 6 次発掘調査 備中櫓復元整備工事（4 ヵ年事業の 2 年目） 備中櫓復元整備工事設計監理業務（4 ヵ年事業の 2 年目）
平成 15 年度	第 7 次発掘調査 備中櫓復元整備工事（4 ヵ年事業の 3 年目） 備中櫓復元整備工事設計監理業務（4 ヵ年事業の 3 年目）
平成 16 年度	第 8 次発掘調査 備中櫓復元整備工事（4 ヵ年事業の 4 年目） 備中櫓復元整備工事設計監理業務（4 ヵ年事業の 4 年目） 備中櫓復元整備工事記録 DVD 作成業務 備中櫓周辺整備工事設計業務
平成 17 年度	第 9 次発掘調査 備中櫓周辺整備工事 五番門南石垣土塀復元整備工事 備中櫓周辺・五番門南石垣土塀復元整備工事設計監理業務 天守曲輪西半整備工事設計業務

年　度	事業費（円）				
	国　庫	県　費	市　費	市　債	計
平成 11 年度	4,000,000	1,333,000	3,091,059		8,424,059
平成 12 年度	25,000,000	6,774,000	6,895,632	11,400,000	50,069,632
平成 13 年度	60,000,000	20,000,000	1,127,997	38,900,000	120,027,997
平成 14 年度	90,000,000	30,000,000	1,790,766	58,300,000	180,090,766
平成 15 年度	120,000,000	40,000,000	20,511,407	59,500,000	240,011,407
平成 16 年度	120,000,000	40,000,000	22,254,177	57,800,000	240,054,177
平成 17 年度	40,000,000	13,333,000	7,773,079	18,900,000	80,006,079
合　計	459,000,000	151,440,000	63,444,117	244,800,000	918,684,117

（註 1）行田裕美「津山城今昔⑦―津山城跡の保存整備と桜の植樹―」『年報津山弥生の里』第 10 号　津山弥生の里文化財センター　2003 年

第２部

発掘調査の概要

第１章　発掘調査

１．はじめに

都市公園サイドで実施されたライトアップ、無電中化、トイレ水洗化等の事業に伴う事前の確認調査は、平成元年と平成２年の２期に亘って実施された。その時の調査成果はすでに報告されている（註１）ので、本稿ではふれないことにする。

年　度	調査次数	調査期間	トレンチ番号（＊）	調査面積（㎡）
平成９年度	第１次調査	12月16日 〜 ３月24日	１－Ｔ－１	132.5
			１－Ｔ－２	4.5
			１－Ｔ－３	7.5
			１－Ｔ－４	8.5
			計	153
平成10年度	第２次調査	９月21日 〜 ２月27日	２－Ｔ－１	12
			２－Ｔ－２	7.5
			２－Ｔ－３	320
			２－Ｔ－４	2
			計	341.5
平成11年度	第３次調査	10月１日 〜 ３月11日	３－Ｔ－１	55
			３－Ｔ－２	1.5
			３－Ｔ－３	1.5
			３－Ｔ－４	216.5
			３－Ｔ－５	173.5
			３－Ｔ－６	53
			計	501
平成12年度	第４次調査	10月２日 〜 ２月８日	４－Ｔ－１	56
			４－Ｔ－２	35
			４－Ｔ－３	88
			４－Ｔ－４	30
			４－Ｔ－５	77
			４－Ｔ－６	1
			計	287
平成13年度	第５次調査	11月12日 〜 ２月26日	５－Ｔ－１	28
			５－Ｔ－２	25
			５－Ｔ－３	43
			５－Ｔ－４	37
			５－Ｔ－５	18
			５－Ｔ－６	18
			５－Ｔ－７	15
			計	184
平成14年度	第６次調査	10月１日 〜 ３月18日	６－Ｔ－１	16
			６－Ｔ－２	34
			６－Ｔ－３	33
			６－Ｔ－４	45
			計	128
平成15年度	第７次調査	７月８日 〜 10月10日	７－Ｔ－１	16
			７－Ｔ－２	73
			７－Ｔ－３	107
			計	196
平成16年度	第８次調査	５月10日 〜 ８月27日	８－Ｔ－１	88
			８－Ｔ－２	110
			計	196
平成17年度	第９次調査	８月１日 〜 11月24日	９－Ｔ－１	29
			９－Ｔ－２	123
			９－Ｔ－３	105
			計	257

（＊）トレンチ番号は、各年度毎にＴ－１・２・３と順に付し、その前に平成９年度を第１次調査とした１を付け加えた。従って、１－Ｔ－１は第１次調査のトレンチ１を意味する。

今回の整備事業に伴う発掘調査は、平成９年度から着手した。これらの調査は、いずれも津山市教育委員会が直営で行った。各年度の発掘調査一覧は前頁表のとおりである。

前述したように、津山城本丸御殿は文化６年（1809）に炎上するが、翌年には再建されている。しかし、これまで再建された御殿の実態については定かでなかった。幸いにもこの度の資料悉皆調査で、再建御殿の指図が関係者のご努力により今日まで保存されていたことが判明した。火災前のものはすでに所在が確認されていたため、これで火災前後の指図、それも作事所が作成した第１級の史料が揃ったわけである。火災前のものは「御城御座敷向惣絵図」文化５年（1808）、火災後のものは「津山城之図」文化７年（1810）である。

発掘調査、特に本丸御殿の調査は、この両者の指図に全面的に依拠して実施した。第26図は火災前の、第27図は火災後の指図にトレンチの位置を重ねたものである。トレンチと絵図との間に多少の齟齬はがあるが、御殿と調査区の位置関係がご理解いただけるものと思う。御殿以外の天守曲輪一帯、裏切手門跡、裏鉄門跡、裏中門跡、裏下門跡の調査については俯瞰図が数種あり、これも調査に多くの情報を与えてくれた。

発掘調査により多くの成果が得られたとするならば、これらの史料によるものが大であることを冒頭申し述べておきたい。

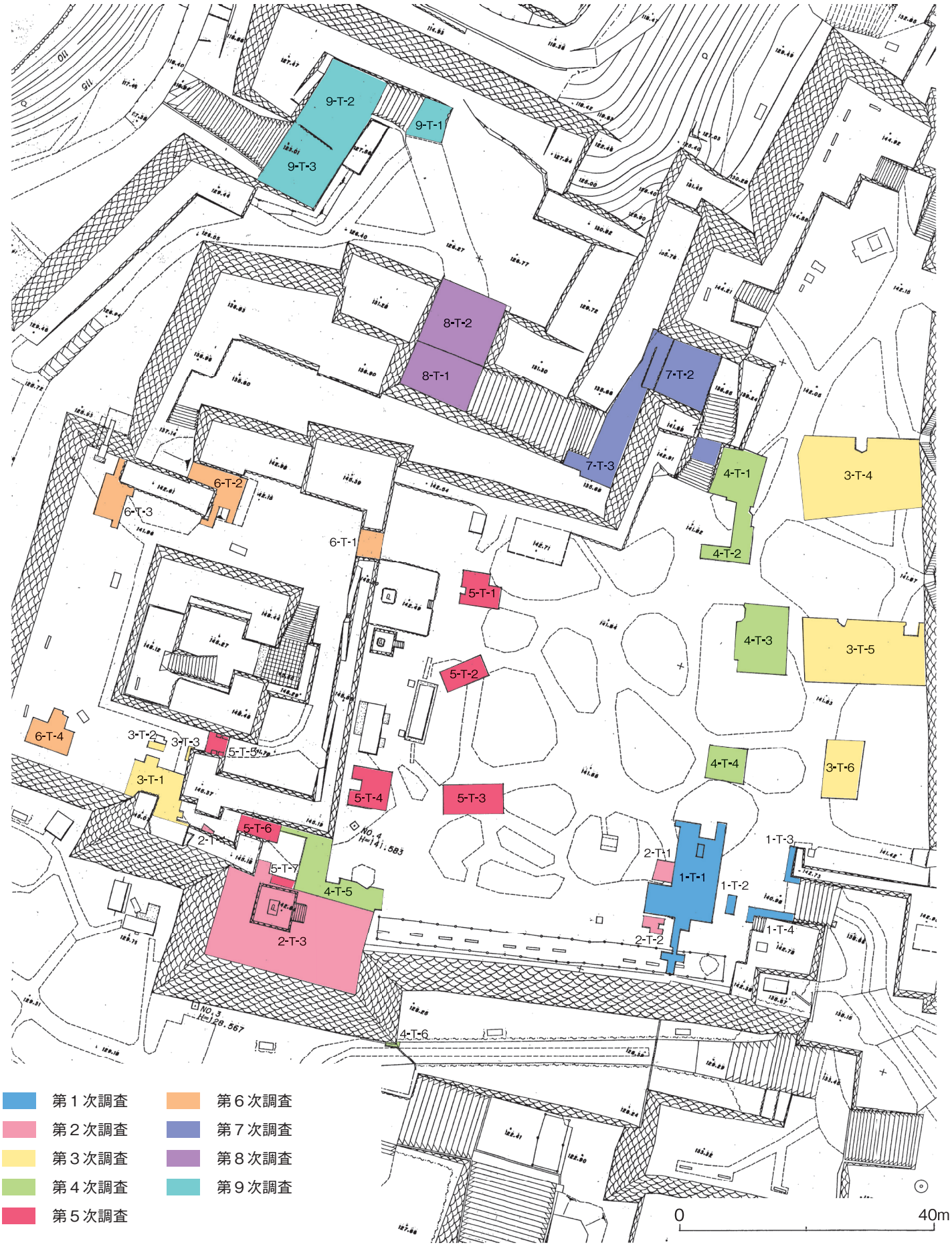
調査にあたっては、史跡津山城跡整備委員会の諸先生方、文化庁記念物課・岡山県教育委員会文化財課の関係者をはじめ、多くの皆さんからご協力、ご指導をいただいた。また、暑い中、寒い中献身的に発掘調査に従事していただいた作業員の皆さんにも大変お世話になりました。記して厚くお礼申し上げます。

牛川喜幸　尼崎博正　伊原恵司　狩野　久　加原耕作　河本　清　鈴木　充　三好基之　村田健一　小野健吉　竹久順一　大林秀弥　苅田善政　土居　徹　柳雄太郎　本中　眞　臼井洋輔　徳光泰弘　田村啓介　野上恭子　岩本えり子　家元弘子　白石　純　宗森英之　近藤義郎　八幡佳奈絵　山本有希　乗岡　実　中山俊紀　安川豊史　小郷利幸　豊島雪絵　小谷善守　上原由香里　仁木正視　三谷順子　磯村幸男　松平　康　岩本美紀　池上　博　乾　貴子　竹内周作　大西珠江　村上幸雄　西　和夫　玉田芳英　木下富子　仁木康治　定久　誠　北垣聰一郎　五味盛重　酒巻仁一　來本雅之　谷　直樹　平澤　毅　坂井秀弥　伊藤正義　飯塚康行　岡崎雄二郎　宮崎素一　中田宗伯　亀山行雄　山中一郎　田中清美　森　可展　森　嵩正　押阪　忍　加藤信二　谷山雅彦　黒崎　直　竹本　巧　三好尚子　後藤元江　小和田哲男　西ヶ谷恭弘　皆木和義　後藤宏樹（順不同）

【発掘作業員】津山市シルバー人材センター

森二三夫　末沢敏男　谷口末男　稲垣裕史　梶尾嘉明　稲垣光男　藤沢淳一郎　加藤文平　野口定男　藤木靖史　森　幸男　蓬郷賢太郎　鈴鹿順一　坂手隆文

（註１）行田裕美・平岡正宏「津山城本丸・二の丸確認調査報告」『年報津山弥生の里』第２号　津山弥生の里文化財センター　1995年



第 25 図　トレンチ配置図（S＝1：800）

第 26 図　火災前本丸御殿とトレンチ配置図

第 27 図　火災後本丸御殿とトレンチ配置図

2．第１次調査（平成９年度）

本丸Ｔ－１（第 29 図、写真１～10）

本丸入口部分の構造を把握するために設定した。トレンチの南側で到来櫓南東角から北に延びる石垣を追及したが、確認できなかった。恐らく、使者櫓の移動に伴う石垣改変の際に抜き取られたものと考えられる。

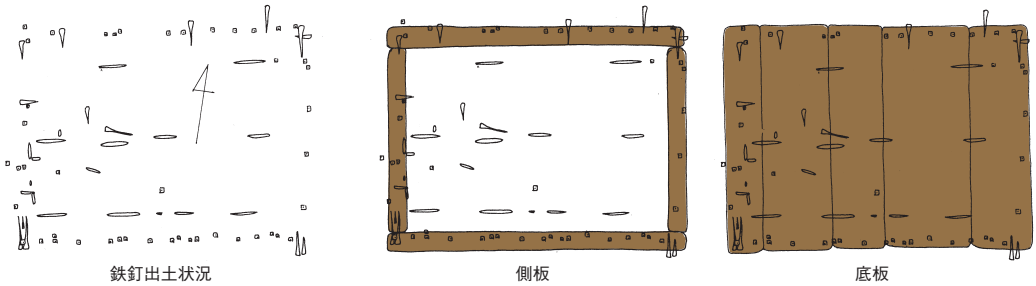
調査区の中央部では東西に走る暗渠排水溝（溝 1）を検出した。溝のほぼ中央には内法で東西 1.4 m、南北 1 m、溝底面からの深さ 30 cmを測る桝遺構（桝 1）を検出した。桝内には木質が錆着した多くの鉄釘がほぼ現位置を保って遺存していた。この鉄釘から復元した桝の木組み状況を第 28 図に図示した。板の厚さは 9 cmで、底面には 5 枚の板が使用されていたことが判明した。

桝の西側は、鉄釘が出土したことから木樋であったことが分かる。溝 1 には南側から溝 2、溝 3 の 2 本の溝が取り付く。溝 2 は桝 1 方向に取り付くが、現状では石で閉塞されており、溝としての機能は失われている。これは溝 2 を新たに溝 3 に造り変えたことを意味している。両者とも木樋が採用されていた。

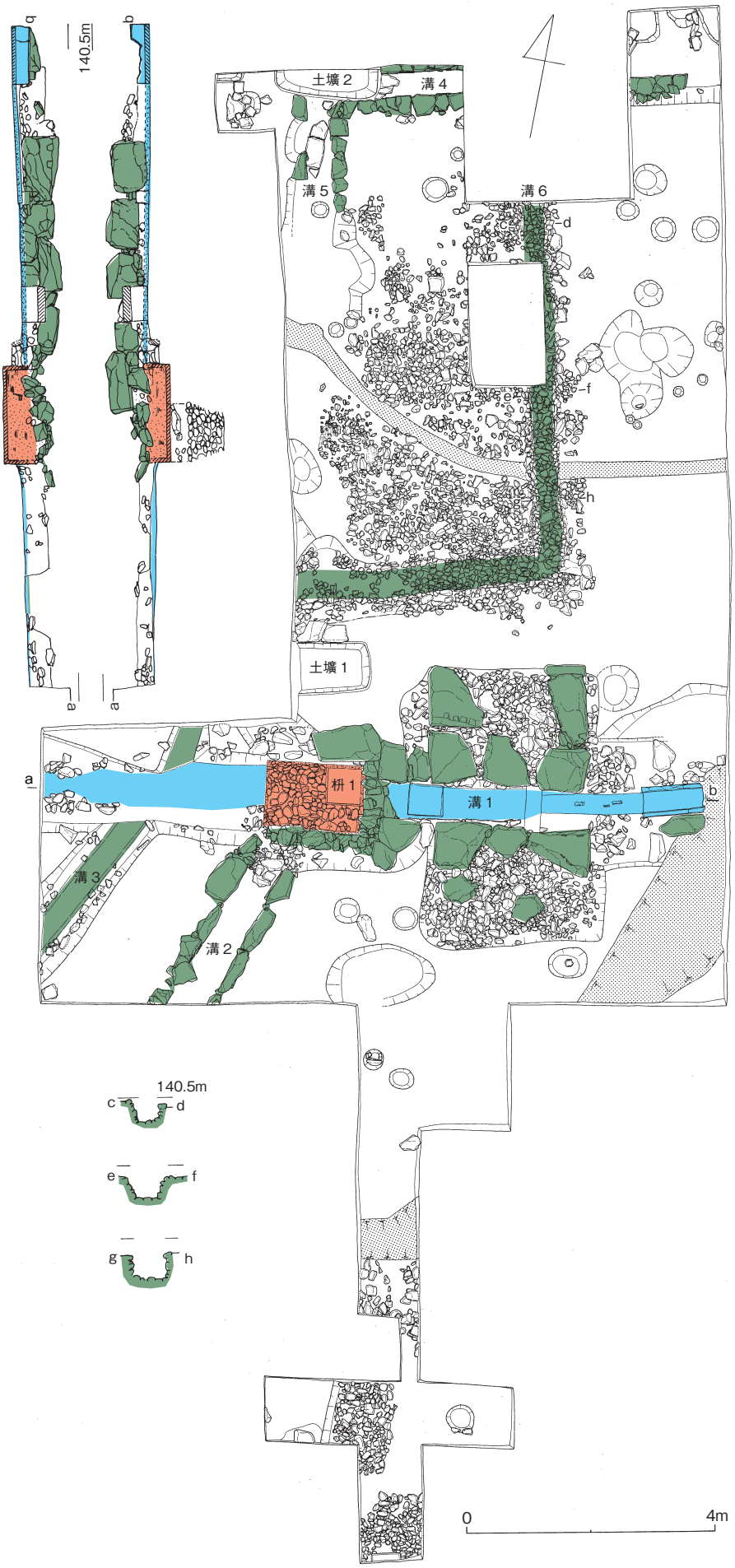
写真１　全景（空中撮影）

写真２　桝１鉄釘出土状況（西から）

写真３　桝１鉄釘出土状況（北西から）



第 28 図　桝１復元図（Ｓ＝１：40）



第 29 図　1－T－1 平面・断面図（S＝1：100）